

2024 年度 9 月入学 博士後期課程 一般入学試験・国費留学生等入学試験
事前課題

課題文を読んで、2500 字から 3000 字程度で設問に答えなさい。その際、資料や文献を参照し、それらを明記すること。参考文献や引用文献等のリストも上記文字数に含まれます。

設問

課題文の論旨を簡潔にまとめなさい。その上で、日本語教育学においてはどのような研究課題となり得るか、そこで得られる研究成果の可能性、および、限界について、根拠を示しながら具体的に述べなさい。

工場を再建するという仕事

資本主義に学ばねばならない、といえば先日、面白いテレビ番組を見た。たしかNHKだった
が番組名は忘れてしまった。工場を再建するアドバイザーを取り上げたものである。

私がかつて老人介護の仕事に就いたとき、これまでやってきた仕事に比べるとなんと前近代的
な世界だろう、と思った。まず他の仕事では最も大切とされた合理主義が通用しない。痴呆性老
人が落ちついたり、寝たきり老人が起き上がったりするのに目を見張り喜ぶのだが、そうした方
法論に再現性がない。つまり、一人に通用した方法が他の人にも通じるかという点、そうはいか
ないのだ。介護が方法論や学問として蓄積していかないのである。それはあたかも、その場、そ
の場での即興演奏を体験しているようだった。すごい、と思つて五線紙に採符して、後で演奏し
てみてみようということはない、そんな感じなのだ。

その介護を意味づけてくれたのが、私にとつては、文化人類学者のレイヴィストロースであつ
た。『野生の思考』（みすず書房）の中の「ブリコラージュ」という概念に出会つたことによる。
近代的工場に代表される、画一的なものを大量につくるという生産方式に対して、未開や原始の
社会の器用仕事「ブリコラージュ」という生産方法を、遅れているものではなくて近代とは別個の
文化として認め、むしろ近代の問題点を超えていくものとして積極的に提案したのがレイヴィス
トロースであつた。

私はこれこそ介護という方法論であり、介護のもつている意味だと思つた。しかし、「工業社会
はこれ（「ブリコラージュ」）をもはや「ホビー」もしくは、暇つぶしとしてしか許容しない」とレ
ヴィストロースも書いている（前掲書四十二頁）ように、介護は単なる後始末をする介護力と
してしか認められていないのが現状である。

近代の生産方法、つまり大量生産と画一主義が、近代人であるわれわれをも、個性のない一つ
の歯車へと変えつつある。それを介護という仕事は打ち破れるはずだ、と私は訴えてきた。「介護
への過剰な思い入れ」だと言われてもしかたないかもしれない。

しかし、近代を超えていく力は近代の真つ口中から生まれてくるらしい。資本主義の高度化は、
工業社会からサービス業、情報化社会を中心とする社会へ転換してきた。ここでは、画一的な生
産方法や思考は通用しなくなってきたのだ。そしてその波は、典型的な画一主義であつた製造業
の現場にまで押し寄せてきているのである。

分業は人間の可能性を潰している

テレビ番組が取り上げていたのは、トヨタの「カンバン方式」を推進してきた人である。その
彼が鳥取の家電工場へ出かけていく。その工場では、中国への工場移転が進むなか、携帯電話の

組み立て生産を行っていた。女性の工員がラインにズラリと並んで、一人が一つの部品を組み立てる流れ作業である。

私は、かつて勤めていた靴の製造工場をすぐに思い出した。ベルトの流れに追われつつ靴の型を運搬するのが私の仕事だった。あとき痛めた腰痛が今でもデスクワークが続くと出てくる。

流れ作業は大量生産には向いている。ところが現在は、多品種少数生産が求められている。消費者のニーズは多様化し、モデルチェンジが繰り返される。

そうになると、流れ作業はかえって効率が悪くなる。売れ行きが悪くなった機種の生産をストップしても、ライン上にはいくつもの未完成品が残っている。効率よくするためには、次の組み立てをする人を待たせてはいけなから、工員と工員の間にはいつも数個の未完成品がストックされており、これらを合わせると、膨大な損失がでるので。

工場再建アドバイザーは、流れ作業による分業をやめるように提案する。ラインを解体し、一人ひとりの工員の回りにすべての部品を並べ（これを「屋台方式」と呼ぶらしい）、一人が最初から最後まで組み立てるので。

かつて彼が関わった、ファクシミリの組立て工場では、分業をやめると生産性はガタ落ちとなる。しかし、あつという間に、分業のときと同じ組み立て数となるのだ。それどころか一人が一日に四台のペースで分業のときのレベルだというのに、六台組み立てる工員が現れてくる。工員の間で競争が始まるのだ。そして組み立てた製品に一台ずつ組み立てた人のサインを入れるのである。

これを労働強化と思う人はいないだろう。むしろ非人間的労働からの解放である。肩こりも腰痛も治るだろうな、と私は思った。なにしろ同じ作業の繰り返しだったのが多様な作業になり、完成する喜びまであるのだ。

携帯電話の組み立ても生産性は落ちる。だが、熟練した工員がたった三日で、分業のときの生産レベルまで達するのである。「人間のもっている大きな可能性を分業が潰している」と彼は言うのだ。